

○調査の概要

調査地は平城京左京三条四坊七坪の西南の区画にあたる。調査は現在継続中であるが、これまでの調査で、坪内の利用状況の概略をほぼ明らかにすることができた。遺構の時期は、大きく古い順にA, B, C, Dの4期に分けられる。

A期(奈良時代前半) 平城京造営当初の時期。二条の東西溝(SD 35, SD 36)によって、坪は南北に二分される。主殿(SB 03)とわき殿(SB 37)とからなる。南方には、敷地を更に二分する位置に東西塀(SA 14)がある。

B期(奈良時代中ごろ) 坪内の区画溝は存続する。南面広廂付の主殿(SB 06)を中心に四棟の建物が建つ。主殿の東方には、鍛冶工場の工具を埋めた土ころ群が存在し、近在に工場のある可能性を示す。

C期(奈良時代後半～平安時代初頭) この時期は、東西溝が埋められ敷地が全域すなわち一町規模に拡大する。四面廂付の大型主殿(SB 01)を中心に七棟の建物、二基の井戸などがある。

D期(平安初期以降) 平城廃都後の時期で、建物はいずれも小規模になる。

その後、平城京の大半は田畑となるが、調査地の北方に佐保川が流れる関係もあり、中世以降その支流がこの敷地の西半に流れた形跡がみられる。

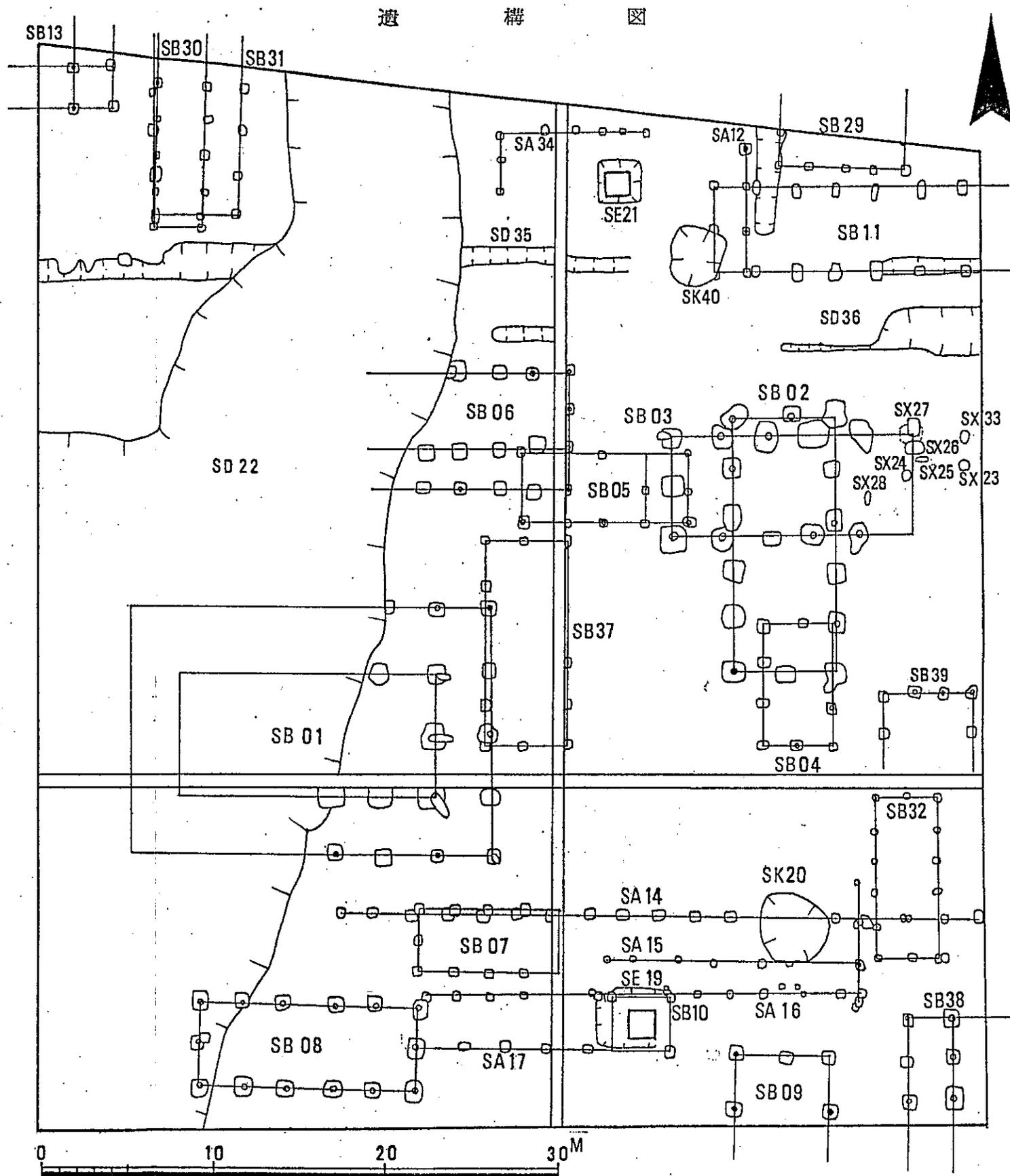
○出土遺物 主要なものは次のとおり。

土器類 土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、硯、墨書土器、土馬。

木器類 削り掛け、曲物底板、漆杯、刀子柄、独楽形木製品。

瓦類 出土量はきわめて少ない。軒瓦に大官大寺式。

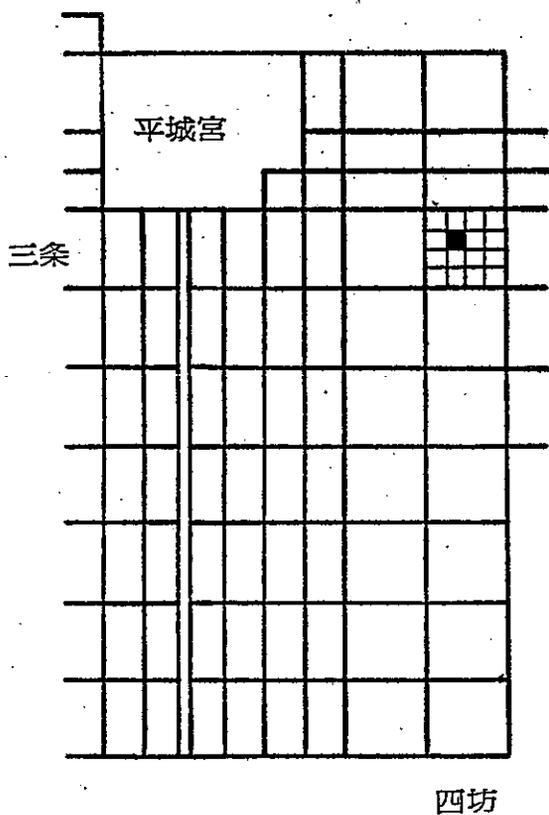
その他 工房跡に関連する土ころから、るつぼ、ふいご羽口、和同開珎、鉞さいなどが出土している。



遺構一覽表

時期	記号	区分	規模	備考
A 期	SA 14	東西塀	11間分(7尺等間)	東方へ延びるか 主殿か 坪割溝か (B期:存続) 坪割溝か (B期:存続)
	SB 37	南北棟	2間 × 5間(8尺等間)	
	SB 03	東西棟	5間 × 2間(10尺等間)	
	SD 35	東西溝		
	SD 36	東西溝		
B 期	SB 38	不明	1間以上 × 2間以上(8尺等間)	西廂付か 検討中 南面広廂(8尺)付 工房跡
	SB 07	東西棟	4間(7尺等間) × 2間(6尺等間)	
	SB 04	南北棟	2間(6.5尺等間) × 3間(8尺等間)	
	SB 06	東西棟	4間以上 × 3間(7尺等間)	
	SX 23~	土ころ群		
	SB 13	不明	1間以上 × 1間以上(8尺等間)	
C 期	SB 09	不明	2間以上(9尺等間) × 1間以上(11尺) 延5間	南北棟か 四面廂付、主殿か 目隠し塀か
	SA 17	東西塀		
	SE 19	井戸		
	SB 10	井戸屋形	1間 × 1間(11尺等間)	
	SB 01	東西棟	3間以上(10尺等間) × 4間	
	SB 02	南北棟	2間 × 5間(10尺等間)	
	SB 29	東西棟	4間 × 1間以上(6尺等間)	
	SA 12	南北塀	2間分	
	SE 21	井戸	方5尺	
	SA 34	塀		
	SB 30	南北棟	1間(10尺) × 4間以上(6尺等間)	
D 期	SB 32	南北棟	2間 × 5間(6尺等間)	間仕切り有か
	SB 05	東西棟	4間(8尺等間) × 2間(7尺等間)	
	SB 11	東西棟	6間以上 × 2間(8尺等間)	
	SB 31	南北棟	2間 × 3間以上(8尺等間)	
その他	SD 22	河川跡		中世以降

遺構変遷図



平城京条坊図(左京)

